

令和２年度京都市地域リハビリテーション推進会議の開催結果について

- １ 日程 令和２年１１月２０日（金）～令和２年１１月３０日（月）
- ２ 議題
 - (１) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について
 - (２) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について
 - (３) その他
- ３ 開催方法 書面による開催
- ４ 各委員からの御意見等

御意見の内容	当センターの見解
各種研修事業の実施方法に関すること	
コロナ禍の中で、各種の研修や会議などが延期や中止になっていると思う。今後のことも考え、オンラインでの開催を検討していただきたい。 今年度は、医療介護福祉にかかわるすべての分野の活動が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大きく制限され、地域リハビリテーション推進事業や相談事業も訪問や来所の事業を制限・中止せざるをえない状況だったと思う。 収束が見通せない中、各団体でも取り組まれているウェブ研修なども今後検討されることを期待したい。	各種研修事業等の実施方法については、従来の対面型の実施に加え、オンラインでの開催等を含め検討を進めています。
地域ガエルのお出かけ講座事業に関すること	
地域ガエルのお出かけ講座は、相談支援を行っている職能団体の研修会に講師派遣の対象としていただくことは可能なのか。例えば、車椅子で患者を介助する機会もあるが、職場の中では「車椅子の基本操作と介助方法」についてきちんと講習を受ける機会がない。その他の内容についても可能であれば検討いただきたい。	地域ガエルのお出かけ講座については、１２のテーマで実施しており、その中に「車椅子の基本操作と介助方法」があります。 講座の対象は、市内に在住、在学又は在勤する方が集まる集会、市内の障害福祉サービス事業所等や医療機関等において開催される研修会としていますので、本会議の所属団体におかれても積極的に御利用いただきたいと思います。
障害者支援施設の利用状況に関すること	
高次脳機能障害に特化した障害者支援施設の利用状況も今年度は大きく減っており、訓練を受けられなかった人たちがどのように過ごされていたのか、別の方法で支援を受けることができていたのかが気になる。	令和２年４月１６日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発せられ、当センター障害者支援施設の通所利用者には、一時的ではありますが通所による訓練を自粛いただく事態となりました。 このような中、個々の通所利用者の訓練状況に応じ、課題プリントを郵送し、自宅でできる訓練を提供するとともに、定期的に担当職員から体調及び生活リズムの確認、課題の

	進み具合等の確認，相談支援等を実施しました。なお，入所利用者に対しては，この間も含め，感染予防対策を徹底し，当施設内での訓練等を実施しています。 当施設利用者の減少についてですが，医療機関を通じた新規利用が減少したことが主な要因となります。 新たに病気や事故で高次脳機能障害者となった方について，「感染予防措置により外出や外食等の機会の減少により対象者が減少したのか」，「対象者はいるが，介護保険などのサービス利用が受け手となったのか」，その原因を含めて，コロナ禍における関係機関での相談支援の現状について，関係団体の皆様にも御意見をお聞きしたいと考えています。
短期入所事業に関すること	
昨年の会議でも発言させていただいたかと思いますが，知的障害や身体障害をもつ方の，家族の休息の支援としての短期入所が強く望まれている。 病院に通院されている方々の家族から悲痛な声が聞かれる。現存の施設だけでは間に合っていないと思えるので，今後障害者支援施設を，他の障害の方の短期入所施設として利用できるようにしていただきたい。	「京都市におけるリハビリテーション行政の基本方針」に基づき，当センター障害者支援施設では，平成27年4月から，支援対象を肢体不自由の方から高次脳機能障害のある方に転換し，平成27年10月からは短期入所事業を開始したところです。 いずれも，利用対象者は，「高次脳機能障害の診断があり，18歳以上の方で，基本的な日常生活動作が概ね可能，かつ施設での集団生活が可能な方」としており，夜間及び休日は，利用者の皆様を生活支援員2名が支援しています。 このような状況の中，新たな利用対象者の範囲を拡大することは，現状では困難であります。現在の利用対象者について，できる限り多くの方を支援できるよう，取組を進めてまいりたいと考えています。
センター事業全般に関すること	
コロナ禍の中，様々な事業や取り組みを中止，延期せざるえない状況と思うが，その中でも感染対策をされ実施していることがわかった。今後とも大変かとは思いますが，よろしく願いしたい。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等によっては，今後も事業を延期又は中止せざるを得ないことも想定されますが，当センターとしては感染症対策を徹底し，可能な限り事業を進めてまいりたいと考えています。 引き続き，御理解と御協力をお願いします。